

熊本県人権子ども集会開催！

平成27年10月10日（土）、パークドーム熊本において、熊本県人権子ども集会が県内の学校や地域からおよそ8,500人の参加のもと開催されました。

この集会は、部落差別をはじめあらゆる差別をなくし、一人一人の人権が尊重される人権共存社会の実現を目指して、毎年開催されており、今年で19回目となります。

事前に4回の子ども実行委員会（中学生2人、高校生6人、特別支援学校高等部生徒1人）を開き、この集会に対する思いや願いを出し合い、集会内容や集会アピール文の検討を重ね、当日は、子ども実行委員の運営により、体験・活動報告、全体活動、集会アピールの提案などが行われました。

【体験・活動報告】

上天草市立龍ヶ岳小学校、大津町立大津北中学校、県立小国高等学校の児童生徒が、それぞれの学習活動や体験から、「正しく知ることや相手の立場で考えること」「差別をなくしていく“なかま”をつくっていくこと」「人とつながること」の大切さを伝えました。

【全体活動】

「繋～つなぐ・つながる・つなげる～」をテーマに、県立熊本聾学校生徒の協力をいただき、参加者全員が心をつにし、手話を交えて歌声を響かせました。

【集会アピール】

あらゆる差別やいじめをなくしていくために、子ども実行委員から、自分たちの行動すべきことの提案がなされ、参加者全員の拍手によって採択されました。

この集会は、子どもたちの人権尊重の意識を高め、先生方・保護者等の方々にも人権教育のすばらしさを感じていただいている集会となっています。また、事前や事後の取組を行うことで、参加者だけではなく、学校全体へとその効果が広げ、「人権尊重の精神に立った学校づくり」の一助につながるのではないかと思います。今後とも、熊本県人権子ども集会への積極的な参加及び事前・事後の取組の充実をお願いします。



【問い合わせ先】 人権同和教育課 096-333-2702

部落差別をはじめあらゆる差別をなくす 熊本県人権子ども集会アピール文

熊本県人権子ども集会アピール文は、あらゆる差別やいじめをなくしていくためにつくられました。
差別やいじめをなくしていこうという強い思いをもって、私たちの未来につなげていきましょう。

最近、インターネットやSNSで差別やいじめをうけて苦しみ、自分の命を傷つけてしまう人がふえています。
みなさん、まわりを見てください。

差別やいじめで苦しんでいる人、泣いている人はいませんか？
自分の言葉で友だちを嫌な気持ちにさせてはいませんか？
噂や陰口を確かめもせず信じてはいませんか？

差別やいじめをなくすために私たちができること、それは、“友だちのことを知る”ということです。
人は一人ひとり生まれた場所も違えば、顔や身長、考え方も違います。また、できることや苦手なことも違います。
「この人とは考えがあわないから」「よく知らないから」とはじめから決めつけるのではなく、
「この人はどうしてこういう考えをもつのかなあ」「この人の良いところはどこだろう」と友だちのことを
理解すること、知ること、自分の見方や考え方が変わると思います。

友だちのことを知るために、まず、友だちと話をしてみてください。

「昨日何してた？」「最近元気ないけど何かあった？」
たった一言でも、相手のことを知ることができます。
話をするうちに、やさしい言葉かけができるようになったり、
相手の良いところを見つけたりすることができるようになります。
時には意見があわずにケンカになることもあるかもしれませんが、
でも、それはお互いに相手のことを分かろうと努力しているからだと思います。
たくさん話をして、楽しい話はもちろん、悩んでいることや困っていることの話ができるようになったら、
それはその友だちと“なかま”としてつながることができた証拠です。
“なかま”とは友だちと違って、お互いにいけないなと思うところを注意しあうことができる関係です。
“なかま”をふやしていくことも、差別やいじめをなくすことにつながっていきます。

身の回りにある差別も、社会にある差別も、私たちにとって遠いものではありません。
私たち一人ひとりが自分のこととして考え、私たちの手でなくしていかなければならないものなのです。
熊本県人権子ども集会に参加している私たちは、
「部落差別をはじめあらゆる差別やいじめをなくす」という同じ気持ちをもっています。
自分を見つめ、まわりを見つめ、ここにいる私たちから“なかま”の輪を広げていきましょう。
そして、差別やいじめのない未来を自分たちの手でつくっていきましょう。

2015年10月10日 部落差別をはじめあらゆる差別をなくす熊本県人権子ども集会参加者一同